



“ぎまままに”川柳

思い出す リレーアンカー 服部ハツ義 子の勇姿	赤と白 ひ孫を探す 運動会 加藤正光	米寿前 もう走れない 亀になる 森本千代美	オクラホマ 好きな人まで あと少し 月丘夢子	手に汗を 対抗リレーに 声をあげ ラン	競技より 熱い戦い 母弁当 らっしやー	運動会 曾孫と参加 感謝する 小阪辰夫	熱気増す 走る子供に 応援歌 足立昌代
----------------------------------	-----------------------------	--------------------------------	---------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------

今月のお題
運動会

■応募方法
 住所・氏名またはペンネームを明記し、直接または郵送、Eメールで広報広聴係へ。
 〒509-5192 (住所不要) ✉ koho@city.toki.lg.jp
 ☎ 1111 (内線613) / FAX 7750
 ※応募多数の場合は採用されないことがあります。

わたしの ほやねさん

「ほやねさん」とは…
 つらいときや悩んだとき、そっと寄り添って「ほやね、ほやね」と話を聞いて、心を支えてくれる人

4年前の春、妻が大きな病気を患い入院と手術をすることになりました。その時我が家には4歳の長男と2歳の次男、そして産まれたばかりの0歳の長女がいました。我が家にとっての初めての試練です。

当時の私は、職場では目の回るような忙しさ。事情を知る職場のメンバーからの「大丈夫か、無理するな」の声かけに、「大丈夫です。ありがとうございます。」と返す、そんなやりとりが続く毎日。そんな中、話を聞きつけて直接職場まで来てくれた部長がいました。普段はあまり話すことのない部長ですが、私の目を見て「大丈夫じゃないな？」と一言。私も初めて「そうですね、大丈夫じゃないです。」と本音をポロリ。そうです。大丈夫じゃなかったんです。妻のこと、子供のこと、親に迷惑をかけていること、仕事のこと、頭の中はぐるぐるで、何一つ処理できていない状態でした。部長は「そりゃそうだよな」と言って、やれる限りのサポートに奔走してくれました。

「大丈夫か？」と聞かれば、「大丈夫です」と答えてしまうんです。なかなか言えない弱音や本音を引き出してくれる、そんな会社のほやねさんに救われました。

募集

掲載の「わたしのほやねさん」ストーリーの他、市内に実在する「まちのほやねさん」を募集します。あなたがこれまでに出会ったほやねさんを400字程度の紹介文と一緒にお寄せください。

■応募方法
 住所・氏名またはペンネーム・電話番号を明記し、直接または郵送、Eメールでまちづくり推進課へ。
 〒509-5192 (住所不要) ✉ machisui@city.toki.lg.jp
 ☎ (内線312) / FAX 7763

N K T K (土岐津町)